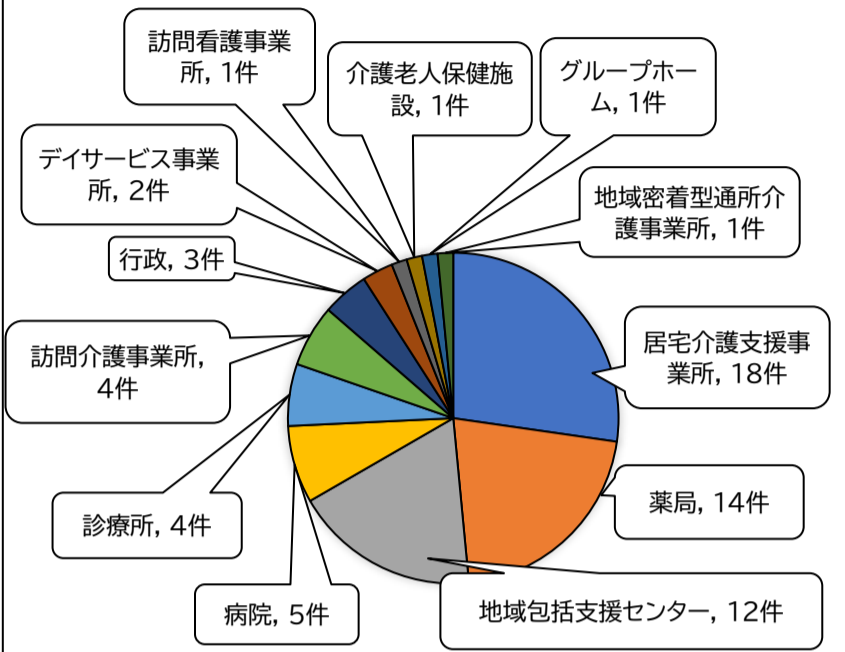
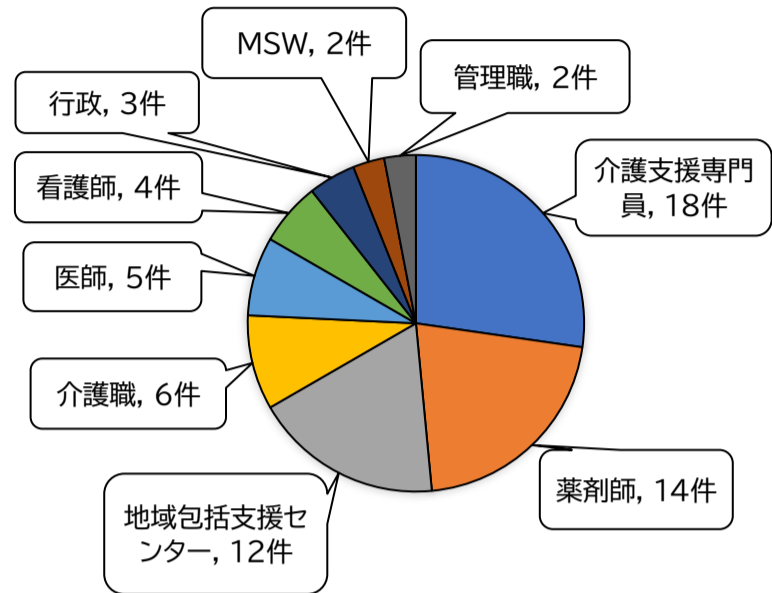


令和3年度認知症対応力ステップアップ アンケート集計表
 配信期間: 令和4年3月4日~3月10日
 視聴回数: 527回(回線: 226件)
 アンケート回答者: 66名

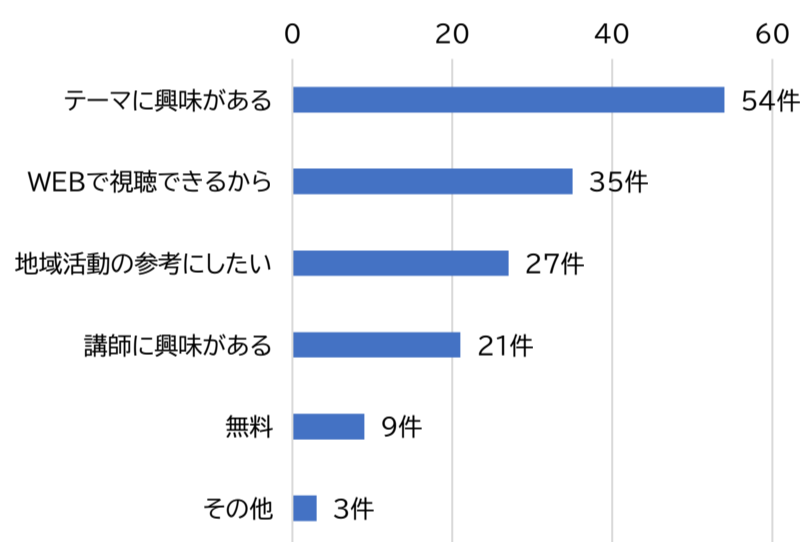
1. 所属



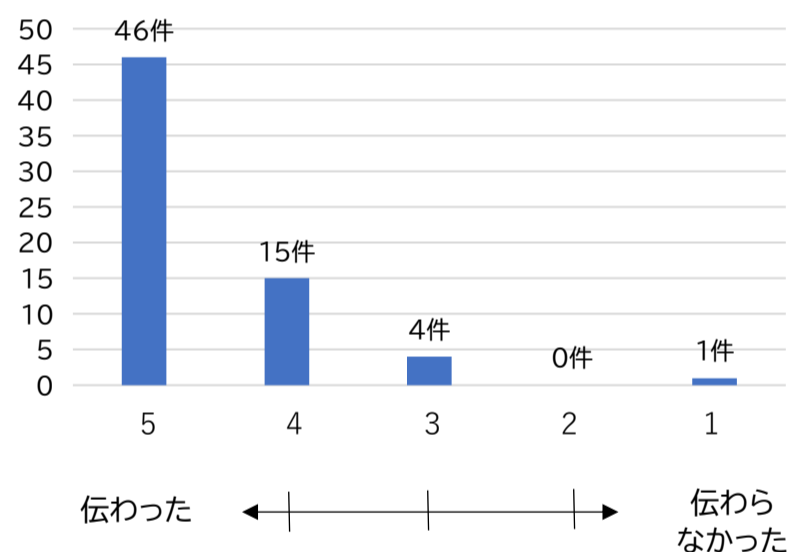
2. 職種



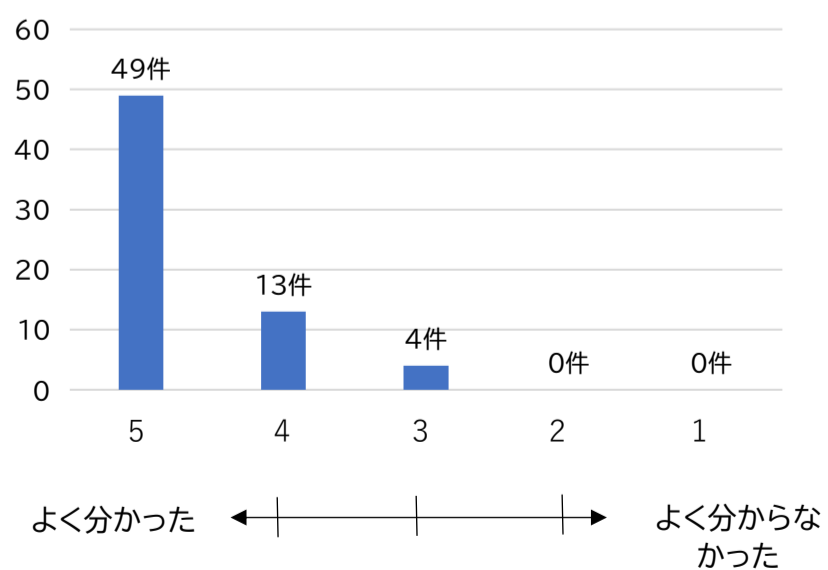
3. 参加動機(複数回答)



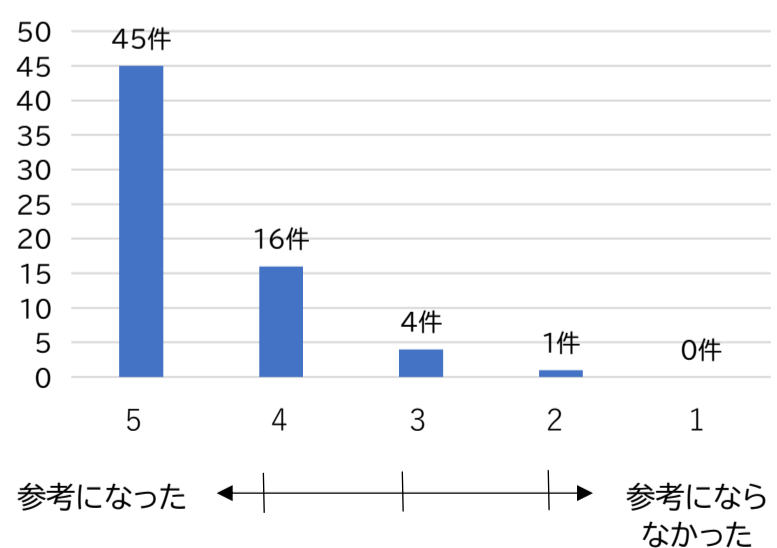
4. WEBでの伝わり方について



5. 研修全体の内容について

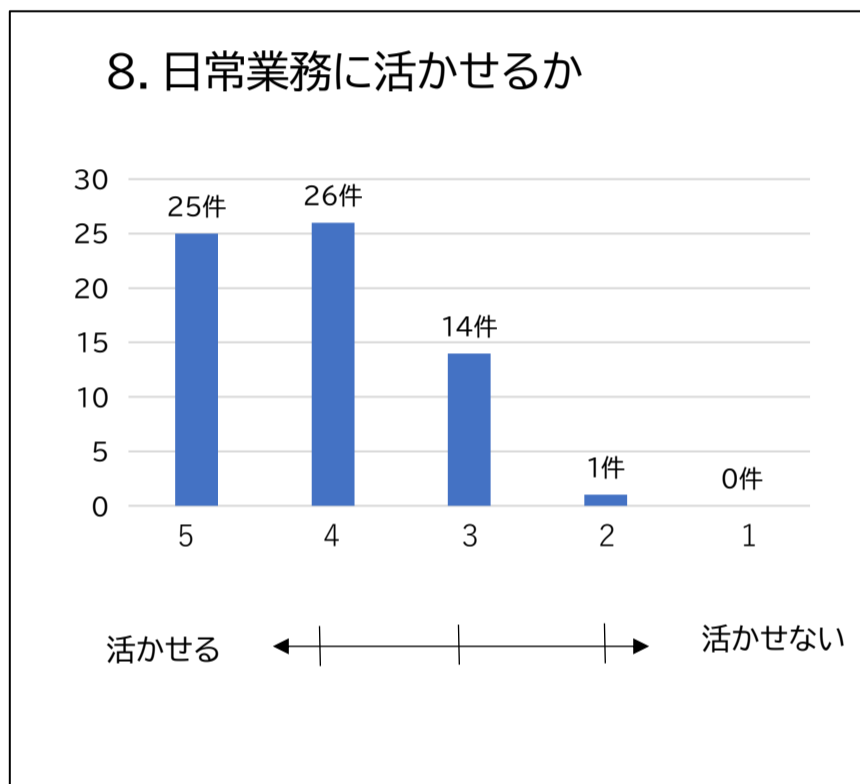


6. 事例研究について



7.6の理由(アンケートより一部掲載)

- ・多職種の方々がどのような思いで対象者さまに向き合い、どのように連携されているのかがわかりました。
- ・本人の意思決定のために、裁判所までチームに入っているのは、ちょっとびっくりした。いろいろな方が携わることによって、充実した支援ができるのだと、改めて思いました。
- ・日頃から思っていた、繋がること、繋がりを広げることの大切さや力をあらためて認識できました。また、本人の意思をその根底に置くべきだと言うことも再認識できました。認知症の方との信頼関係をいかに築けるかで、その意思確認が可能になることと思います。人として、同じ地域で暮らす生活者として、高齢者と関わって行きたいと思いました。
- ・誰かに「たすけて」を言ったら良いか、その時の判断が大切だと思いました。ケアマネが線ではなく面になれるようにと思いました。
- ・行政に頼ってしまうところをケアマネ自身で解決し支援をつなげたのは素晴らしい
- ・何から取り掛かれば良いか途方に暮れるケースもあるが、今回の事例のようにひとつずつ本人や関係機関との繋がりを持ちながら取り組んでいくことで解決に向かっていくのだと力をもらいました。
- ・「多職種連携」、「連携を図る」などよく言いますが、それが実際にどういったものなのか、イメージできる事例でした。チームで関わり支援していくということは、高齢者分野に限らず、障がい、子ども、生活保護などあらゆる分野でも大切な考えだと思いました。



9.8の理由(アンケートより一部掲載)

- ・事業所さんへのお願い・協力という部分では対等な為、協働の必要性をあらためて感じました。認知症という部分では居宅の関わり方が重要になると、この研修を受けて更に強く感じました。その部分に包括がどれだけの協力をしていくかも学ばせて頂きました。
- ・今回のような方が措置入所につながったケースがいくつかあります。命の危機を優先し、そのような対応となりましたが、この方々に対しても今回のケースのような対応をしていたら、どのような言葉が聞けたのかな、どのような生活を望んでいたのかな…と考えさせられました。また、認知症の方などの意思決定支援についても、ガイドブックはあるものの、事例を学んだことがなかったため、学びになりました。人生ノートの専門職への普及啓発も重要だと思いました。
- ・ケアマネによって、施設によって、医師によって能力に差があり、これは永遠の問題だと思います。
- ・すぐに信頼関係はできるものではなく、話し合うこと、時間をかけて諦めないことが大切。毎日の業務で心掛けていきたいです。
- ・分析の仕方、関わり方など、広い視点で、と、忘れずに意識するところから始められそうです。
- ・活かすようにしたいとは感じているが、実際、事例の様な対応が自分に行えるか不安は残ります。
- ・事例からの学ぶ時、事例の示し方や得られるエキスの抽出等参考になりました。
- ・関わりあるそれぞれの専門職がやれる事、出来る事、を自ら考え、実現する(実現しようとする)姿勢は常に自分の心に持っておきたい。